

# 沖縄ん 建築紀伝

横断する眼差し

■ 7回 ■ 国場幸房(建築家)  
天空を大地へよび込む空間の創造

## 実践における思考

子供の頃から聞いていつも気にしていた言葉で沖縄のオジー、オパーの会話の中でよく出る「シメ(墨)ー知っち、ムノー知らん」いう諺がある。その諺は人間における物事の道理や人間の心を重要視したことに対し、知識や学問が時折その本質を忘れていくことへの警鐘を促すことを意としていることである。その諺は私が物事を思考する中で、あらゆる事象に当てはめる習性になっていく。例えば、建築学の本質は、様々な与条件の中からその本質を見抜き、自然環境に適応した人間のための空間を創る学問であるということが基本であると。

ムーンビーチホテルの立地条件は、沖縄を象徴するような自然環境に恵まれた風光明媚なところに位置している。ピロティの技法を生かすことにより、風景や眺望を損なうことなく人々の集う憩いの空間となる。海辺を抱きかかえるようなL字型の平面は四〇〇mにもおよびピロティ空間を創出し、それは建築面積の約八十%を占める約三千坪のピロティである。それは沖

縄の風土に適した大らかで豊かな空間とガジュマルの木陰を想わせ、浜辺に集う数千人の人々の憩うスペースとなりえる。吹き抜けの空間は各階の回廊をつき抜けて、天空を大地へよび込んで豊かな空間を演出してくれる。そのようにしてムーンビーチは三百余の客室と約三千坪のピロティを加えるとかなり大きな建築空間になる。一般的には同室数を有する約六千坪の建物は約四十億円前後の工事費になる。その同じ工事費で約二倍に該当するピロティを含めた約一万二千坪の空間を創ることになる。それは、常識を覆したアイデアと努力が必要不可欠で、様々な思考、試算を繰り返した。

例えばリゾートホテルだから「こうしなければならぬ」という既成概念を先ず疑ってみることから考え方をスタートした。豊かな空間を創ることで多くの人々の憩いの場となるよう表現するためのあらゆる方法と考えを繰り返した。

思考した。先ず建築コストの大きな比率を占める躯体のコンクリートの値段は、一㎡あたり約一万円位である。使用コンクリート量は三万㎡なので約三億円になり、それに付随する鉄筋や型枠の概算コストを加えると十数億円で四百万のピロティを要した開放的な一万二千坪のコンクリートの夢の空間が創れる事になる。そのことを幾度も幾度も試算を繰り返し確かめた。さらに仕上げを通常のコンクリート打ち放しにすると金がかかるので「コンクリートやりっ放し」という考え方で進めた。表面がきれいな打ちっ放し仕上げではなく、荒々しいコンクリートの素材感をそのまま表現することである。その考え方で同じ型枠を五、六回使うことにより、億前後の建築コストを下げる事が出来た。躯体以外の部分についても同様な発想をいたるところ展開していった。例えばホテルのメインロビーは、沖縄のエメラルドグリーンの素晴ら



天空を大地へ呼び込む豊かな吹き抜け空間

しい海の景色をガラス越しに見て感動を与えるように、内部を暗色のペンキの仕上げですませたり。客室やその他の壁面部分の仕上げは、沖縄の瓦屋根に使われるムチを塗り、モルタルペンを仕上げの三分の一のコストで出来る仕上げを考え出したり。それはこれまでは前例の無い内装の仕上げであるので、実施するには勇気を要した。

内装のコストを抑えながら、結果的にも沖縄らしい雰囲気を出してきたと思う。空間を立体的に豊にするための吹き抜けは、多くの緑を絡ませながら、恐怖感を与えない数キロに及ぶ手摺りの設計に時間をかけた。合理的な手摺りの設計に時間をかけた。

ピロティは緑をからませたモルタル刷毛引きで仕上げ。植栽計画にしても、沖縄の風土に適しているガジュマルを主体にし、海辺に生息しているテリハクサトビラ等をテラスに植えた。さらに建物を短時間に緑化するために芋蔓を沢山植えた。本質が何かを考えることで、あらゆる常識を逸脱した方法を考え、コスト削減を図りながら、大きな空間と緑豊かな空間を表現に導く事が出来た。

「利用する人々」と「場」の関係性をより豊かなものにするための必要なスケールと空間を創出。大地の連続性を失うことなく、数千人の人々の集う木陰を思わせる「ピロティ」は多くの人々や子供達に親しまれ利用された。努力して生み出したはずの、そのピロティ空間が、現在失われているのは残念である。それは今でもかつて多くの人々が利用した県民のビーチとして、より賑わっていたらと思うからである。